

共通テーマ 「豊かな言語活動を通した、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

拠点校Ⅰ

(西郷村立西郷第一中学校)



実践の具体的な内容

- CAN-DOリストに関して、年間を通したものに加え、単元ごとのものを作成した。一つのUnitを通したReflection Sheetの活用を行った。
- 生徒同士の会話のやり取りや練り上げによる課題解決を目標とした、めあてを設定した。

取組による成果

- 単元ごとのCAN-DOリストの活用により、授業の見通しと振り返りが生徒にとって容易となり、考えの深まりや意識の向上が見られた。
- オーセンティックな場面の設定は毎時間、生徒たちにとって目的や意識の高まりを感じることができていたようである。今後も継続していきたい。
- 相手意識を高めるためにタブレットによる自己撮影をさせたことがあったが、生徒たちにとってはハードルが高く、今後も方法に関しては検討する必要があると感じられた。
- シェアリングの方法に関して、時間の設定が難しく今後もより生徒が活動しやすい方法や流れを試行錯誤する必要があると感じた。

拠点校Ⅱ

(西郷村立米小学校)





実践の具体的な内容

- タブレット等を活用して児童が伝え合う内容について調べることで、児童が外国語で伝え合おうとする意欲を高められるようにした。
- 自分たちの住む西郷村の地図を活用させることで、児童が外国語で道案内をしようとする意欲を高められるようにした。
- Starting OutやYour Turnで知識・技能を定着させ、Enjoy Communicationで思考力・判断力・表現力を高める時間を確保することで、児童のコミュニケーション能力を高められるようにした。

取組による成果

- 児童が外国語で質問したり答えたりする際に、既習事項を生かすことや自分で調べたことをタブレットで提示することを意識させたことで、抵抗なくスムーズに話すことができた。
- ALTが発表や話し方のモデルを児童に聞かせるなど、ALTの活用を工夫してきたことで、児童の話す・聞く力の向上が見られるようになった。

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

協力校 (西郷村立熊倉小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> □ 目的・場面・状況の工夫(自校化)により興味・関心を引き出す。 □ CAN-DOリストの活用により、これまでの既習を用いる。 □ CAN-DOリストの共有により、学習のふり返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿を引き出せた。 ○ 児童も教師もねらいを明確に学習を進めることができた。 ○ 既習事項や中学校の学習内容を意識して学習を進めることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> □ CAN-DOリストの活用と単元を見通すための単元構成表を作成し、児童と学習内容を共有して授業を行う。 □ 一単位時間における「聞くこと→話すこと→読むこと→書くこと」の指導過程を継続して行う。 □ 言語材料を最初から明示せずに活動させ、児童の思考・判断を促し、児童自身の疑問を解決する授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ CAN-DOリストの活用と単元構成表を作成したことで、子ども達と学習内容を共有して言語材料の獲得を目指す授業を展開することができた。 ○ 授業展開を継続したことで、学習内容が定着した。 ○ 児童の疑問を大切にして授業を展開することで、より言語材料として基本的な英語表現を獲得することができた。